



風っ子・環境キャンペーン

桐生市

サケの稚魚放流で学ぶ 自然環境の大切さ

チャウスこどもエコクラブ

チャウスこどもエコクラブ（広沢町）は、昨年未から春先にかけて「サケプロジェクト」を実施しました。サケに

「大きい」「色が違う」と、大切に育てたサケを見比べながら元気の良い声が上がります。大きいものは7〜8センチ、小さいものは3センチほど。色も深緑や黒などさまざま。なぜこのような差が出るのでしょ

ウオーク」には、稚魚を育てた7組16人が参加しました。「大きい」「色が違う」と、大切に育てたサケを見比べながら元気の良い声が上がります。大きいものは7〜8センチ、小さいものは3センチほど。色も深緑や黒などさまざま。なぜこのような差が出るのでしょ



稚魚を放流し、ごみ拾いを終えたメンバー。ペットボトル、や缶、ビニール袋やお弁当の空箱とさまざまな種類のごみがありました

両毛漁業協同組合の中島淳志組合長が「育った水の温度で大きさが、水槽の底の色で背中の色が変わるよ」と教えてくれました。川で育ち、海を旅するサケ。底の色に合わせて体の色を変えるのは、鳥たちから身を守る工夫なのだそうです。4〜5年かけて海から生まれ育った川に戻ったサケは、産卵して一生を終えます。その死骸は、多くの野生動物によって陸地へ運ばれ、豊かな森をつくります。サケは命を循環させ、豊かな自然を生み出すのに欠かせない大切な魚だということを学びました。いよいよ放流。「元気で戻ってきてねー」と言いながら送り出しました。

その後は、みんなでごみ拾い。わずか30分で6袋分のごみが集まりました。小森谷拓真さん（みどり・笠懸北小4年）と岳琉さん（同2年）は「9割育つてうれしかった」と、小森菜愛さん（太田・沢野小3年）は「ごみ拾いをし、サケが帰って来られるきれいな川にしたい」と話していました。



※学校、学年は取材当時のもの
バケツに川の水を入れて慣らしてから、稚魚が自然に泳ぎ出るのを待ちます

風っ子・環境キャンペーンを応援します

チャウスこどもエコクラブ

加藤正幸代表サポーター 70人(2018年度末)

桐生市広沢町7-7-5
TEL:0277-52-7799
http://www.chaus.jp

子どもを対象とした自然体験活動をしている「チャウス自然体験学校」が運営するエコクラブ。さまざまな自然体験を通して環境の大切さと自分たちにできることを学び、実行しています。



サケを守ることは、
環境を守ることなんだね

群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」
許諾第30-111002号

身近にできるエコ活動

レジ袋を減らそう

みんなの家には、お店で買ったレジ袋が何枚くらいたまっているかな？レジ袋は便利だから、お店で買物する時など、ついもらってしまうよね。でも、レジ袋を捨てる時は、土に埋めても溶けないし、燃やせば有毒なガスが出るし、海に流れてしまうと、魚が誤って食べてしまうなど、とにかくやっかいなゴミになってしまいます。買物の時に、みんなでマイバックを使うなど、レジ袋を減らすために、ほんの少し意識を変えて行動すれば、このやっかいなゴミも減らせることができます。

群馬県環境アドバイザー しろ たひろみ 城田博巳